

伝える

楽しむ

見る

作る

学ぶ

考える

作る

学ぶ

深まる

東京都写真美術館
教育普及プログラム記録集
2019-2021

パブリックプログラム	05
モノクロ銀塩プリントワークショップ	06
じっくり見たり、つくったりしよう!	07
視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ	08
バーチャル撮影体験イベント「クロマキーランド」	09
写真のプレゼンテーションを学ぶ	10
オープンワークショップ 手作りアニメーション体験	11
写真美術館ボランティアスタッフによる対話型鑑賞会	12
夏休みワークショップ 手作りの家族写真 暗室でのモノクロ現像に挑戦!	13
QRコード・ミッション 春休み TOP MUSEUM	13
手話通訳付きギャラリートーク	14
手話通訳による展覧会トーク	15
フォトドキュメンタリーワークショップ	16
宮本隆司ワークショップ「見るためには闇が必要だ」	17
映像ワークショップ「LEDの明滅で、アニメを作ろう」	18
オンライン・プログラム 写真家・宮崎学さんにお話をきく	18
おうちでワークショップ 青写真—太陽の光で影を写しとる	19
おうちでワークショップ 手作りアニメーション体験—おどろき盤	19
スクールプログラム	20
博物館実習	28
ボランティア活動	29
教材開発	32

*本書では、2019年4月から2022年3月までのプログラムについてご紹介しています。

パブリックプログラム

東京都写真美術館では、写真・映像・美術に親しみ、作品をより深く理解するきっかけとなるようなプログラムを行っています。子供から大人まで、また初心者から上級者まで幅広い層を対象に、制作体験のプログラムや対話をしながら作品を鑑賞するものなど、さまざまな切り口のプログラムを用意しています。

モノクロ銀塩プリントワークショップ

写真との関わり方、楽しみ方が多様化した時代に対応して、普段からデジタルカメラ、スマートフォンで写真を撮っている人、フィルムカメラや暗室での現像に興味を持つ人、家庭に古いネガフィルムを持っている人など、幅広い世代や愛好者層を対象に、写真プリントの基本であるモノクロ銀塩プリント（ゼラチン・シルバー・プリント）を半日程度で体験してもらうプログラム。現像済みのネガフィルム、またはデジタル画像を元にしたデジタルネガフィルムから、暗室でプリントを制作します。

※手話通訳つき

所要時間

2時間半～3時間

対象

現像済みの銀塩ネガフィルムを用意できる人、またはデジタル画像データ2点を用意できる人

実施日・参加者数

2019(H31)年度～現在

2019年6月22日(土) Aコース5名/Bコース7名

2019年6月29日(土) Cコース13名/Dコース4名

※1日あたり2コース実施。

2019年12月7日(土)7名、11日(水)9名、14日(土)12名、

2020年1月22日(水)9名

2022年1月20日(木)4名、21日(金)2名

参加者の感想

- ・丁寧に満足いくまでプリントさせていただきとても楽しい時間でした。また参加したいです。
- ・1分、1秒の大事さや、写真をとる上での基本（白トビ、黒つぶれはダメ）に気づかされました。
- ・手話通訳者がいて助かり、色々聞いて良かったです。
- ・細かく調整できることが、驚きで、とても面白かったです。
- ・素晴らしい設備と丁寧な対応がとても良かったです。アドバイスも、とてもわかりやすく、初めてでも楽しめました。
- ・撮ったあとの自由度というものがここまであると思いませんでした。たくさんスタッフの方に教えていただき、とても良かったです。
- ・露光秒数や絞りで印象がこんなにも違うのかと驚きました。フィルムカメラにも興味が出てきました。色々な写真の現像を試みたいです。



じっくり見たり、つくったりしよう！

作品の鑑賞と制作の両方を気軽に体験できる、親子のためのプログラム。TOPコレクション展の展示室で自由に対話を交えながら、楽しく作品を鑑賞し、その時々々の展示に合わせた毎回内容の異なるミニワークショップを体験します。実際に写真制作を体験することで、さらに作品鑑賞を深めることができます。

所要時間

2時間

対象

小学生とその保護者(2人1組)

実施日・参加者数

2019(H31)年度～現在

2019年7月27日(土)16名、7月28日(日)16名

「TOPコレクションイメージを読む 場所をめぐる4つの物語」展に関連して対話型鑑賞とフォトグラムを実施。

2019年11月2日(土)6名

「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」展に関連して対話型鑑賞とデジタルネガを使用したモノクロ銀塩プリントを実施。

参加者の感想

- ・ゲームが楽しかったです。いつもやるゲームと違う思考を伝えるのが良かったです。展示の作品について、あんなにじっくり話をしながら鑑賞する事がないので刺激的でした。暗室は、昔やって楽しかったので娘に体験できる機会を持ってとても良かったです。
- ・写真をまじまじとみて、感想や気づきを話し合う機会は初めてだったので、とても良い刺激になりました。
- ・私はふだん、写真はただ美しさをおさめるものだと思っていましたが、展覧会を見てみると、いっしょに見ただけでは分からないことが沢山知ることができました。
- ・イメージ遊びがおもしろかった。鑑賞もいろんな年齢、性別の意見を聞くことによって見方が深まった。写真製作も初めての作業で、本格的でやりがいがあった。



視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら一緒に展覧会を鑑賞するワークショップ。見える人と見えない人のペアのナビゲーターとともに、その時々開催中の展覧会を、各自の気づきを元に見えていることや感じていることを言葉にして伝え合い、見方を共有しながら作品の理解を深めていきます。さまざまな視点を持ち寄ることで、一人では出会えない新しい美術の楽しみ方を発見できます。

所要時間 2時間～3時間

講師 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

対象 どなたでも

実施日・参加者数 2019(H31)年度～現在

●視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

2019年6月8日(土)5名、15日(土)5名

「TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語」展

2019年9月1日(日)7名、10月13日(日)(台風により開催中止)、

「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」展

2019年12月15日(日)6名、2020年1月11日(土)5名、

16日(木)7名「至近距離の宇宙 日本の新進作家vol.16」展

※1月16日は夜間開催

2020年11月21日(土)7名(オンライン開催)

「生誕100年 石元泰博写真展 生命体としての都市」展

2021年1月16日(土)6名、24日(日)8名(オンライン開催)

「瀬戸正人 記憶の地図」展

2021年3月21日(日)7名、27日(土)9名、28日(日)5名(オンライン開催)

「澤田知子 狐の嫁いり」展

※3月28日は高校生以上の学生対象

●インクルーシブ鑑賞ワークショップ:見るときとき見ええない、のち話す、しだいに見える

2021年9月5日(日)8名「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展(オンライン開催)

2021年11月23日(火・祝)7名「松江泰治マキエタCC」展(オンライン開催)

2022年1月10日(月・祝)7名、16日(日)2名

「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家vol.18」展(オンライン開催)

2022年3月21日(月・祝)10名、27日(日)4名

「TOPコレクション 光のメディア」展(オンライン開催)

※3月27日は高校生以上の学生対象

参加者の感想

- ・久しぶりに美術館に来た。見えないと来にくいだが、この機会がありがたい。くわしく説明していただいて、お互いでストーリーを、つくりあげているようだった。美術を鑑賞した満足感がある。
- ・多くの人、視覚障害をもっている人も一緒に鑑賞すると、作品に対する理解の広がりができて、おもしろかったです。
- ・見えていない人も見えている人も、それぞれに見えている世界の多様性に気づかされたり、こんなにも想像の余地を与えてくれるのが本来の美術の力なんだと改めて感じる事も出来ました。

バーチャル撮影体験イベント「クロマキーランド」

さまざまな写真画像を背景に、参加者が記念撮影を楽しむバーチャル撮影体験イベント。乳幼児から大人まで、年齢を問わず無料参加できるプログラム。テレビ番組などで見られる「クロマキー合成」の技術を用いておこないます。参加者は、背景となる写真画像を選んで、自らがモデルとなり、思い思いのポーズで撮影。出来上がったプリントは持ち帰りできました。現実にはありえない組み合わせやスケール感による、不思議な写真画像を楽しんでもらうことが目的となっています。

所要時間

10分程度

対象

どなたでも

実施日・参加者数

2019(H31)年度～現在

2019年9月14日(土)48名

参加者の感想

- ・みどりのぬのののについたらしゃんの中に入ったみたいでおもしろかった。
- ・偶然アナウンスを聞き、4か月の赤ちゃんとおばあちゃんと3人で、良い記念になりました。
- ・CG技術の体験ができ、大満足です。
- ・海外ドラマがクロマキーで撮影されているというので、どんな感じが体験できて、それが面白かった。



写真のプレゼンテーションを学ぶ

写真で人に何かを伝えるスキルを高めるためのプログラム。参加者一人あたり20分間、自分自身の写真作品をプレゼンテーションし、若手ギャラリストと当館学芸員がアドバイスをさせていただきます。写真を撮るだけでなく、写真を選ぶことや編集すること、見せること、伝えることへのトータルな関心を深めることを目的としています。

所要時間

1人あたり20分～30分

対象

一般(高校生以上)

実施日・参加者数

2019(H31)年度～現在

2019・2020(R2)年度

講師:河西香奈(KANA KAWANISHI GALLERYディレクター)、
石田哲朗(東京都写真美術館 学芸員)

2019年7月19日(金)6名

2019年9月20日(金)6名

2020年1月17日(金)4名

2020年3月13日(金)開催中止

2021年2月19日(金)3名

2021年3月12日(金)3名(オンライン開催)

2021(R3)年度

講師:菅沼比呂志(インディペンデント・キュレーター)、
小島ひろみ(東京都写真美術館 学芸員)

2022年3月24日(木)2名、25日(金)4名(オンライン開催)

参加者の感想

- ・制作を続けている最中の写真なので、今後、撮影に出掛ける上でも参考になりました。客観的な意見をいただいて、自分の作品との向き合い方も少し変わる気がします。
- ・見学OKということで、他の方の写真や解説をお聞きすることができ、見方が広がったと思う。自分の撮っている方向性や見方はこれで良かったんだと確認することができた。
- ・普段、写真をじっくり見てもらう機会もあまり無いので、とても貴重な時間になりました。
- ・自分の作品についての客観的な意見や表現するための言葉を頂けてとても勉強になりました。特に作家としての作品に対する責任については、深く考える必要があると感じました。今回のプログラムを受けて、パリでのプレゼンテーションに自信が持てました。



オープンワークショップ 手作りアニメーション体験

小学生とその保護者を対象とする「午前コース」では、パソコンを使ったコマ撮りアニメーションを体験したり、絵や図形を描いて「おどろき盤」を作り、アニメーションの基本を楽しみながら学びました。(小学3年生以上は子供のみの参加も可能。) 一般を対象とする「午後コース」は、オープンワークショップ形式で、大人から子供までが自分で考えた絵や図形を描いて、12コマのループするアニメーションを手作りしました。

所要時間

30分～1時間程度

対象

どなたでも

実施日・参加者数

2019(H31)年度～現在

2020年1月26日(日)35名

参加者の感想

- ・子供たちがイメージをふくらませてあそべる様々なしなげがあり、大変おもしろかったです。またやってほしいです。
- ・コマどりがすごく楽しかったです!おどろきばんも面白く見えました。
- ・子どもがコマ撮りアニメに興味があり、今日はそれ目的で伺いましたが、私の方が童心に帰って楽しめました。
- ・子どもにも分かりやすく、コマ撮りアニメーションに興味をもつきっかけになったと思いました。大人にとっても面白い内容でした。



写真美術館ボランティアによる対話型鑑賞会

これから写真や美術に親しみたいと思っている方、対話型鑑賞に最近興味を持ったけれどまだ体験したことがないという方でも気軽に参加できる、当館のボランティアがナビゲートするオンラインによる対話型鑑賞会。それぞれが作品を見て感じたことを率直に話し合い、お互いの発言を共有し対話を交えながら、より深い鑑賞を体験しました。

※オンライン開催

所要時間

2時間半～3時間程度

対象・実施日・参加者数

2021(R3) 年度～現在

- ・ボランティアによるはじめての方のための対話型鑑賞会
対象：まだ対話型鑑賞を体験したことのない中学生以上の方
2021年8月29日(日)10名
- ・ボランティアによる対話型鑑賞会(ファミリー、グループオンライン参加コース)
対象：小学生から大人まで、グループ参加OK
2021年12月18日(土)5名
- ・ボランティアによる対話型鑑賞会(ひとりでじっくりオンライン参加コース)
対象：中学生以上の方
2021年12月25日(土)3名



参加者の感想

- ・美術館に一人で行く場合、1作品に40分かかるとはなかったので、対話をしながら深く読み込んでいく体験は貴重で面白かったです。どのような部分に着目して観るとよいか、普段は作家の意図やコンセプトなど見えない部分を一生懸命理解しようと思いますが、子供と一緒にいる場合は目に見えるそこにある事柄について色々観察することの楽しさがあるなと気づきがありました。
- ・私たち参加者の意見から、更に細かな感覚を引き出して下さったり、一緒に感想を言い合ったりすることができました。フレンドリーで温かな対応でした。

夏休みワークショップ 手作りの家族写真 暗室でのモノクロ現像に挑戦！

今日では体験する機会が少ない、暗室での写真の現像を体験してもらい、小学生とその保護者を対象としたプログラム。参加者が自らの家族写真を選び、そのデジタル画像を元にして、デジタルネガフィルムから密着焼き付けによって、白黒プリントを制作しました。引伸機や薬品を用いて、本格的な写真の焼き付けを楽しみながら学びました。

所要時間 2時間

対象 小学3年生～6年生とその保護者(小学生のみの参加可)

実施日・参加者数

2019(H31)年度

2019年8月24日(土)Aコース11名/Bコース12名、

8月25日(日)Aコース12名/Bコース11名

※1日あたり2コース実施

参加者の感想

- ・ネガがすごくかわかったです。すごく楽しかったのでまた来てみたいと思います。
- ・現像液に印画紙を入れた時に画像が浮かびあがってくると子供が感嘆の声を上げました。いい思い出になったと思います。
- ・光をあてるじかんでいろがかわるということがおもしろかった。
- ・むかしのやり方でシロクロ写真を自分で作るなんてめずらしい経験ができてとてもよかったです。
- ・私自身も初めての体験で、本当に楽しかったです。



QRコード・ミッション 春休みTOP MUSEUM

来館者がスマートフォンを手に、館内複数個所に掲示されたQRコードを手掛かりとして、web上に特設された動画コンテンツにアクセスし、ミッションをクリアする館内回遊型バーチャル・イベント。TOP MUSEUMを楽しむ、学ぶためヒントを来館者に紹介しました。

対象 QRコードの読み取り、YouTubeの視聴が可能なスマートフォンをお持ちの方なら、どなたでも

実施日・参加者数

2021年3月27日(土)～4月11日(日) *来館者自由参加



手話通訳付きギャラリートーク

各展覧会で定期的に開催しているギャラリートークをより多くの方楽しんでいただくために、手話通訳付きで実施することで、インクルーシブな場としました。展覧会のテーマや展示作品について、学芸員が手話通訳者をまじえて見どころをわかりやすく解説しました。

手話通訳者

瀬戸口裕子、長谷川美紀、山崎薫

トーク担当

各展担当館学芸員

実施日・参加者数・展覧会名

2018(H30)年度～現在

2018年6月1日(金)2名、7月6日(金)6名、8月3日(金)5名
「TOPコレクション たのしみ まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ」展

2018年9月14日(金)5名、10月12日(金)8名
「TOPコレクション たのしみ まなぶ 夢のかけら」展

2019年6月28日(金)4名
「宮本隆司 いまだ見えざるところ」展

2019年6月7日(金)4名、7月5日(金)2名、26日(金)7名
「TOPコレクション イメージを読む 場所をめぐる4つの物語」展

2019年8月16日(金)8名、
「嶋田忠 野生の瞬間 華麗なる鳥の世界」展

2019年9月6日(金)4名、10月4日(金)4名、11月1日(金)4名
「TOPコレクション イメージを読む 写真の時間」展

2019年9月6日(金)2名、20日(金)4名
「しなやかな闘い ポーランド女性作家と映像」展

2019年11月22日(金)0名
「イメージの洞窟 意識の源を探る」展

2019年12月6日(金)1名
「山沢栄子 私の現代」展

2019年12月27日(金)5名、2020年1月10日(金)14名、17日(金)11名
「至近距離の宇宙 日本の新進作家vol.16」展

2020年3月20日(金) *新型コロナ感染拡大防止により中止
「日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る」展

2020年3月27日(金) *新型コロナ感染拡大防止により中止
「写真とファッション90年代以降の関係性を探る」展



手話通訳による展覧会トーク

手話を母語とする方々を対象に、展覧会のテーマや展示作品について、担当学芸員が手話通訳者をまじえて、見どころをわかりやすく解説しました。

対象

手話を必要とする方 5名+介助者

手話通訳者

瀬戸口裕子、長谷川美紀、山崎薫

トーク担当

「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家 vol.18」展:

山田裕理(東京都写真美術館学芸員)

「松江泰治 マキエタCC」展:伊藤貴弘(東京都写真美術館学芸員)

実施日・参加者数

2021年12月16日(木)3名、2022年1月13日(木)4名

「記憶は地に沁み、風を越え 日本の新進作家vol.18」展

2021年12月23日(木)4名、2022年1月6日(木)1名

「松江泰治 マキエタCC」展

参加者の感想

- ・最初に説明をさせていただいて鑑賞した後に参加者のみなさまと一緒に質問をうかがうことが出来て内容が深まりました。鑑賞している時に時代や時間に対するもやっとした印象があったのですがみなさんと学芸員さんの話でその印象のりんかくがはっきりしたように感じました。
- ・作家展覧会の情報を細かく知ることができると、その作家の奥深いところまで把握できたような感覚になり、その感覚で改めて展覧会を見るとより親しみがわいてくる。
- ・一人で見ると皆さんの意見などを聞いてとても参考になったし、まず興味を持つようになって、積極的にプログラムに参加してみたいと思う。
- ・ツアー形式より、まず、簡単な説明があって、本人たちの自由な鑑賞の後に質疑応答をやる形のほうがより自立的な鑑賞になってくる。とても好ましいやり方と思う。
- ・やりとりのスピード感もよく楽しい時間でした。ていねいに内容と向き合っていただきわかりやすかったです。



フォトドキュメンタリーワークショップ

21世紀のフォトドキュメンタリー／フォトジャーナリズムの実践的な方法を考える3日間連続のワークショップ。「世界報道写真展」にあわせて開催しました。ニューヨーク在住の写真家Q.サカマキ氏、雑誌『AERA』で長年フォトディレクターを担当してきた外山俊樹氏が講師を務めます。ポートフォリオ・レビュー、レクチャー、ディスカッション、課題(クイック・ヒット・エッセイ)の制作・発表を行い、フォトドキュメンタリーのエッセンスや考え方を多面的に学びました。

所要時間

8時間×3日間

対象

プロのフォトジャーナリストを目指す人、ジャーナリズム系の編集者を目指す人、すでに写真家または編集者として活動している人、3日間連続で参加できる人

講師

Q.サカマキ(写真家)、外山俊樹(朝日新聞社映像報道部)

実施日・参加者数

2019(H31)年度

2019年7月13日(土)～15日(月・祝)51名(のべ人数)

参加者の感想

- ・サカマキ先生が始めにおっしゃっていた「写真5年分くらいの内容」という言葉以上のとても重要なことが詰め込まれたワークショップでした。これから写真をやりながら、今回の内容を何度も噛みしめて理解したいと思います。
- ・ジャーナリズムのワークショップでしたが、写真全体についての大事にしなければいけない所、気を付けなければいけない所を学べて良かったです。
- ・経験や技量に関わらず(私はかなりLOW) 取り組むことができる内容課題で、じぶんに合わせたフィードバックを頂け、得るモノがとてもありました。自分の技量を考えると、参加しようか迷ったのですが、参加してよかったです。



宮本隆司ワークショップ「見るためには闇が必要だ」

「宮本隆司 いまだ見えざるところ」展ではピンホール・カメラを利用した作品が展示されました。ピンホールとは文字どおり針で開けた穴のことです。針で開けた小さな穴を通して光を結像させて撮影するのでピンホール・カメラと呼ばれています。このワークショップでは作家が講師となって、このカメラを手作りし、実際に撮影、現像をおこないました。

所要時間

8時間

対象

18才以上

講師

宮本隆司(出品作家)

実施日・参加者数

2019年6月1日(土) 16名

参加者の感想

- ・ピンホールカメラの作成も、暗室作業も初めての経験で楽しかったです。暗室作業で、画像が出てきた時の喜び、感覚は新鮮で面白いですし、写っていてよかったです。またピンホールで撮る行為、偶然を受け入れる、失敗はない、自分が全てをコントロールできないという考え方も心地よく、受講して本当によかったです。
- ・長時間に渡り、製作・撮影・現像・密着の過程をていねいに教えて頂きました。又 流れの体験によって写真の原理も理解することができました。光を入れ込むという行為を通して写真の中の自然を感じ取ることができました。
- ・とても有意義な体験でした。写真は手間のかかるものでした。でも、とても味わい深く宮本先生の話を聞いたのもとても貴重でした。
- ・現像できるまでにワクワクして待つ感覚が新鮮だった。スタッフの方は何でも答えてくれてわかりやすかった。



映像ワークショップ 「LEDの明滅で、アニメを作ろう」

「今のギャルは電子工作する時代」をスローガンに活動するユニット「ギャル電」のきょうこ氏を講師とする映像ワークショップ。マトリクスLEDの8×8個の光の明滅をプログラミングし、ドット絵によって文字や図像などをつくり、それらが入れ替わることで動いて見えるアニメーションを制作しました。

参加者の感想

- ・楽しく作らせていただきました!もっとたくさんの人にやってほしいです。さいごのコンパットが自分でもできるようになりたいです。
- ・いろいろ体験できて楽しかった。よくわからないギャル語を学ぶことができてよかったです。→シンギュラリティ:でもギャル語じゃないですかね?
- ・きょうこさんの説明がおもしろすぎました!! 予備はんだはマスカラだ!はんだづけはネイルアートだな? みたいな印象で楽しく作業出来ました。中学生の娘がいるのですが一緒に受けたかったー!! がんばりましたー!! アニメーション作るのたのしかった。

所要時間 3時間

対象 一般大人

講師 ギャル電 きょうこ

実施日・参加者数
2020年10月31日(土) 3名



オンライン・プログラム 「写真家・宮崎学さんにお話をきく」

「宮崎学 イマドキの野生生物」展について、作家から写真家としての仕事や自然や環境についてお話を聞くことができ、また展示作品から感じたこと学んだことを伝えると作家自身からコメントや質問に答えてもらえるなど、作家との出会いをより深い学びの体験の場となりました。

所要時間 1時間半

対象 小学3～6年生とその保護者

講師 宮崎学 (出品作家)

実施日・参加者数
2021年10月23日(土) 親子10組20名



おうちでワークショップ 青写真—太陽の光で影を写しとる

美術館で配布する「青写真体験セット」を来館者が持ち帰り、それぞれが自宅で作品制作を行ってもらうプログラムです。青写真(サイノアタイプ)は他の写真技法と比べて比較的容易に印画できるため、太陽の光で様々な素材を写しとる制作に適しています。自家製の青写真印画紙2枚入りの体験セットを用いて制作してもらった作品の画像を、希望者から美術館にメール送信してもらい青写真作品を集めた記録(スライドショー)を制作・インターネット上で公開しました。

参加者の感想

- ・焼き付けの時の色の変化がおもしろかった。きれいな青になって、すごく不思議だと思った。
- ・夏休みの自由研究に使いました。初めての挑戦だったので1枚目は上手くできませんでしたが、2枚目は日当たりや時間など気をつけながらやりました。葉脈までしっかりわかる作品ができてよかったです。
- ・親の私自身も初めてでしたが、説明の動画・同封されていた説明書が分かりやすく楽しんで取り組むことができました。なかなかこのような機会がないのでありがたいです。
- ・こどもと夏休みのいい体験になりました。コロナ禍で美術館に行けませんが、落ち着いたらぜひ行きたいと思います。

対象 どなたでも

配布日

2020年12月17日(木)、18日(金)、19日(土)
計202名

※体験セットには、「青写真印画紙」2枚、「制作の手引き」、「スライドショーへの参加方法のご案内」を封入。



おうちでワークショップ 手作りアニメーション体験—おどろき盤

美術館で配布する「おどろき盤体験セット」を用いて、それぞれが自宅で作品制作を行うことのできるプログラムです。「おどろき盤(フェナキスティスコープ)」は、19世紀に起源をもつ原始的なアニメーション装置です。当館で主にスクールプログラムで用いるオリジナル「おどろき盤」4種類とパンフレットが同封された「体験セット」を対面配布およびダウンロード版として当館ホームページ上でのデータ配布を行い、それを用いて制作した作品の画像を希望者が美術館にメール送信し、作品を集めた動画(コマ撮りアニメーション)を制作、インターネット上で公開しました。

対象 どなたでも(推奨年齢9才以上)

配布日

2021年1月10日(日)、11日(月・祝) 計56名
ダウンロード期間:2020年12月21日(月)～
2021年1月12日(火)



スクールプログラム

学校の児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習ができるように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や活動、教職員の研修と連携し、スクールプログラムを実施しています。当館のスクールプログラムの特徴は、一度の来館で、写真や映像作品の制作と作品鑑賞の両方を体験できることです。表現と鑑賞の両面から、写真／映像の仕組みと楽しさを体験的に理解できる内容となっています。

鑑賞や制作・表現の活動を通して主体的な学びを促進し、子供たちの「生きる力」を幅広く育てることができるプログラムを多数ご用意しています。基本メニューを中心に、担当の先生のセレクトに応じて個別に相談しながら、学校ごとに最適なプログラムを組み合わせ、さらに、二〇二一年度は、新しい生活様式を鑑みて、来館の他にオンラインでの授業も行いました。

作品鑑賞体験プログラム

A 対話しながら作品を見てみよう*

それぞれが作品を見て感じたことを率直に話し合い、お互いの発言を共有しつつ鑑賞を進めていきます。グループでの対話により、一人では気づかなかった作品の魅力や多様な見方を知ることができるとともに、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力など児童・生徒のさまざまな「生きる力」＝「アート思考」をはぐくみます。

当館特製の「色と形と言葉のゲーム」(実用新案登録)を使い、同じものを見ても考え方がそれぞれ違うことを楽しく体験し、その後、会場またはスタジオ壁面にプロジェクターで投影し、全員で対話をしながら、じっくり作品を鑑賞します。*2021年度はオンラインでも実施

[キーワード]

能動的鑑賞体験、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力、言語活動、新しい入試問題に対応、他者理解、自己肯定感、多様性、理解、アート思考、SDG's、など

児童・生徒の感想より

色と形と言葉のゲーム

ひとつのものや言葉に対して、ひとりひとりの感じ方が違って、人が思うことは自分とは違うんだなとわかった。写真も他の人と比べると自分もつ印象と違うんだらうとこのゲームでわかった。(小学5年)



- ・形と色だけでいろいろなことを表わせることを知りました。(小学4年)
- ・みんなの表げんの仕方になつとくした部分とへえーと思った部分があり、表げん力って大事だなと思いました。(小学4年)
- ・人によって意味と語彙をつなげている要素が多様に異なることを改めて認識でき、知ってはいるものの、実際にシェアして感じる事は少ないので新鮮な感覚でした。(大学生)

対話型作品鑑賞

- ・じっくり見ると「どうしてこの写真をとったんだろう」「なんかきれいだな」という写真をたくさん見つけました。写真は、しぜんと人をよせつける、み力があると分かりました。(小学4年)
- ・あんなに長い時間写真を見たのは初めてだった。(小学5年)
- ・おもしろい写真を見たくなくなった。おもしろい写真を撮ってみたいなくなった。(小学5年)
- ・1枚の写真から、「その周りに何があるのか」「この人物は何を考えているのか」「それは本当にそれなのか」といういろいろな考え方ができて、みんなの考えも聞けて楽しかった。(小学5年)



暗室体験プログラム

B フォトグラム (2019年度まで実施)

フォトグラムは様々なものの影を、印画紙へ直接写し取る写真方式のことです。各自が持参した日用品の影を写し取るという、カメラに頼らない自由な造形活動により、もののかたちの多様さ、おもしろさを実感しながら、写真ならではの光と影による表現とモノクロ銀塩写真の暗室作業を体験します。

[キーワード]

光と影、いろとかたち、モノクロームの世界、写真をつくる、コントラスト、白と黒だけの表現、身近なもののかたち、など

児童・生徒の感想より

- ・一番心に残ったのフォトグラムをつくったことです。なぜかと言うと白黒で物をのせて作る写真なんて貴重な体験だし光を当てて液体をつければ絵がうかび上がってくるのが不思議だからです。(小学4年)
- ・最初は、黑白写真は、昔のものだと思っていましたが、実さいは、今も作れることに、おどろきました。(小学4年)
- ・カメラやスマートフォンを使わずに光を使うフォトグラムが楽しかったです。(小学4年)



C デジタルカメラの画像から

白黒写真をプリントする (2019年度まで実施)

生徒自身が撮影した写真画像を元に、当館で作成したデジタルネガシートを用いて、暗室での白黒写真現像を体験します。露光時間や調子を少しずつ変えながら、繰り返し現像し、理想の1枚をつくります。フィルムカメラ(モノクロネガフィルム)の現像体験も可能です。

[キーワード]

写真を手作りする、暗室技能を学ぶ、コントラスト、モノクロームの世界、など

児童・生徒の感想より

- ・フィルターの効果を変えたり、露光時間を変えたりとカメラで撮った後で自由に操れるのは楽しかった。(高校生)
- ・白黒写真の楽しさを発見できた。(高校生)
- ・iPhoneで撮ったものが、時間をかけてプリントになり、液晶画面でなく紙になったのがギャップを感じ、おもしろかったです。(高校生)



手作りアニメーション体験プログラム

D おどろき盤 (2021年度はオンラインでも実施)

おどろき盤(フェナキスティスコープ)は、19世紀を起源とするアニメーション装置です。特製の円盤形の用紙に自由に絵を描き、鑑賞することを通してアニメーションの仕組みを体験的に学びながら、世界にひとつしかないおどろき盤を制作します。

[キーワード]

アニメーションの起源と仕組みの理解、能動的学習、体験的理解、友達とのかかわり、など

児童・生徒の感想より

- ・いつもアニメをテレビで見ている、アニメをつくる側なんて関係ないと思っていたけど、こんなに簡単につくれるなんてびっくりした。(小学4年)
- ・紙と鏡、わりばし、画びょうだけで、アニメーションができるなんて驚いた。(小学4年)



E コマ撮りアニメーション (2019年度まで実施)

テーブル上に並べた様々なモチーフをウェブカメラでコマ撮りし、専用のソフトを使ってアニメーションを制作します。動かないものに命を与えるアニメーションならではの映像表現の仕組みを理解し、その魅力や楽しさ、仲間とともに作りあげる達成感を体験します。

[キーワード]

パソコンを使った制作、コマ撮りアニメーションの仕組み、意見調整、リーダーシップ、相互協力、など

児童・生徒の感想より

- ・協力してつくるコマ撮りアニメは、とても素晴らしいものだとわかりました。何が素晴らしいかというと、みんなの意見を聞き合えたり、その意見をどう生かすのかどうやって表すのか考えたりできるところです。(小学5年)
- ・少しずつ動きを変えていって、つなげて見たのが「おもしろい！」と思いました。(小学4年)
- ・コマ撮りアニメーションで、大きく動かすと、はやくなって、小さく動かすと、おそく動くということが分かりました。(小学5年)



青写真制作プログラム

F 青写真 (2021年度から実施)

青写真は、太陽の光によって印画する伝統的な写真技法で、その名のとおり深い青色が特徴です。花や葉など自然のものや、プラスチックやガラス、布など透過性のある素材の日用品などをモチーフに、特製の印画紙の上に載せて太陽にあてることで、写し取り、作品を制作します。

[キーワード]

自然の力を利用してつくる写真、光と影、ポジとネガ、いろとかたち、写真をつくる、モノトーンの表現、身近なもののかたち、など

児童・生徒の感想より

- ・青写真はつくった影が布や紙に形として残ったからおもしろかった。(小学5年)
- ・スマホやタブレット、カメラでなくても光で撮れたりして、違いがおもしろかった。ものの影や形しか写らないのもいつもと違って楽しめた。(小学5年)
- ・素材が変わると、少しもようも変わったり、ときとうになにかをならべるだけでもきれいなものになったり、かなり楽しかったです。(小学4年)



先生方の感想

みんなそれぞれに発見があったり、真剣に取り組んでくれていたようでした。最後に学生たちにどんな場のデザインがあると良いか聞いてくださっていたのも、今後の授業に結びつく話となり、大変ありがたかったです。今後授業内で、スウェーデンのこども病院でのアートの導入・活用事例を見てもらって、では自分たちにはどんな場があったらいいだろうと考えてもらう取り組みをする予定です。最初は個人で考えてもらって、最終的にはグループワークとしてZoomの授業内で発表をしてもらおうと思っています。今回のWSのおかげで、学生たちも良い具合にあったまってきたようです。このような状況の中でも受け入れていただき、本当にありがとうございました。

[私立大学教員]

先日は「おどろき盤」オンライン授業をしていただきありがとうございました。私自身、美術館へ子供たちを連れていく活動は何度か行ってきましたが、今回のように、オンラインにて作品をつくる活動は初めてでした。少々不安もありましたが、事前打ち合わせを行ったうえで、おどろき盤の見本や、おどろき盤作成用紙(4種類)などを送っていただいていたことで、準備も行うことができました。3回の授業終了後にもお話ししましたが、回を重ねるごとにこちら側でのモニターの映し出す大きさや、お話しいただいている内容に合わせた子供たちへの支援のタイミングをつかむことができました。子供たちも、石田さんのお話とパワーポイントや見本があったことで、活動のイメージがもちやすかったようです。実際に自分で回して見ることで、絵が動くことを実感でき、つくりたいという興味や意欲も高まったのだと思います。子供の様子を見てみると、図工が得意な子は、3番目に紹介いただいた用紙からつくり始める子が多かったようです。また、一旦1番簡単なものに色を塗りながら、描きたい絵を考えて2枚目をチャレンジする子も多かったです。実質50分ほどの活動時間で、

いつもよりタイトな時間の中で作品をつくっていましたが、難易度の違う用紙を4種類用意していただけたので、どの子も安心して活動に取り組みめたようです。子供たちの感想にもありましたが、家で続きをついたり、家族に見せたりして楽しんだようです。翌週には新しくつくって見せてくれた子もいました。来年度この子たちは、写真によるパラパラアニメーションをつくる活動を予定しています。きっと今回の活動は生きてくるのではないかと期待しています。また、次の4年生にも今回のような機会がもてればと考えておりますので、その際にはご連絡させていただければと思います。ありがとうございました。

[小学校図工教員]

先日はスクールプログラムの体験をさせていただき誠にありがとうございました。生徒達も体験後、「楽しかった、面白かった」と笑顔で話をしていました。先日本校で部活動まつりという行事があり、写真美術館で行った青写真を展示したところでも好評をいただきました。ありがとうございました。当日は様々な御対応をさせていただき誠にありがとうございました。素晴らしい体験をさせていただき感謝しております。また機会がありましたら、参加させていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

[特別支援学校教員]

スクールプログラム活用状況2019～2021年度

2019(平成31)年度

※は出張授業実施校 ○はオンライン授業実施校

学校名	対象・学年	授業区分	人数	プログラム内容
京都造形大学	教員	教員研修	9	展覧会解説
日本写真芸術専門学校 II部(夜間部)	大学1年生	美術館研修	23	展覧会解説
日本大学 藝術学部 写真学科	大学生	授業等	19	展覧会解説
青山学院大学 経営学部	大学生	授業等	10	展覧会解説
日本大学 藝術学部 写真学科(写真基礎演習III)	大学生	授業等	4	展覧会解説
日本大学 通信教育部	大学生	授業等	16	概要説明/対話型作品鑑賞
中央区京橋築地小学校	5年生	校外学習	38	おどろき盤/対話型作品鑑賞
東京造形大学	大学生	授業等	25	展覧会解説/展覧会自由見学
東京造形大学	大学生	授業等	23	展覧会解説/展覧会自由見学
東邦大学 看護学科	大学生	学外授業	23	対話型作品鑑賞レクチャー
日本大学 芸術学部 写真学科	大学生	授業	20	展覧会解説
学習院大学	大学生	博物館実習	11	展覧会解説
日本大学 芸術学部	大学生	博物館実習	23	展覧会解説/展覧会自由見学
日本大学 芸術学部	大学生	博物館実習	26	展覧会解説/展覧会自由見学
インディアナ大学	大学生	校外学習	16	美術館概要説明/展覧会解説
明治大学 国際日本学部	大学生	授業等	8	フォトグラム/対話型作品鑑賞
足立区図工部会	図工教員	教員研修	57	フォトグラム/対話型作品鑑賞レクチャー/ スライドでの対話型作品鑑賞
港区立御田小学校	4年生	授業等	58	フォトグラム/対話型作品鑑賞
都立世田谷泉高校	高校生	部活動	6	対話型作品鑑賞
渋谷区原宿外苑中学校	中学生	部活動	15	フォトグラム/展覧会自由見学
大田区東調布中学校	中学生	授業等	15	フォトグラム/展覧会自由見学
武蔵野美術大学 博物館学概論	通信教育課程	授業等	27	概要説明/展覧会自由見学
茨城県立高等学校文化連盟写真部会	高校生	部活動	43	概要説明/展覧会自由見学
東京都歴史文化財団主催ティーチャーズプログラム	教員	教員研修	12	フォトグラム/概要説明/展覧会鑑賞
大田区図工部会	教員	教員研修	22	フォトグラム/概要説明/展覧会鑑賞
板橋区図工部会	教員	教員研修	24	フォトグラム/概要説明/展覧会鑑賞
東京大学教育学部附属中等教育学校	中学、高校	部活動	7	フォトグラム/展覧会鑑賞
東村山市南台小学校 ※	5年生	出前授業	49	美術館概要説明/対話型作品鑑賞
港区立港陽小学校	6年生	授業等	52	コマ撮りアニメーション/展覧会鑑賞
港区立白金の丘小学校	5年生	授業等	36	フォトグラム/展覧会鑑賞
影路駅台芸術進学塾(中国北京)	高校生	見学会	32	通訳による展覧会鑑賞
港区立白金の丘小学校	5年生	授業等	71	フォトグラム/対話型作品鑑賞
多摩美術大学 笠原恵美子研究室	大学生	授業等	21	美術館概要説明/展覧会解説
東京造形大学	大学生	授業等	4	展覧会解説
東京造形大学	大学生	授業等	16	展覧会解説
ベガサスインターナショナルスクール	年長、1,2年生	授業等	7	おどろき盤/対話型作品鑑賞/展覧会鑑賞
東京造形大学	大学生	授業等	20	展覧会解説
東京大学 教養学部	大学生	授業等	16	美術館概要説明/対話型作品鑑賞/ 展覧会自由見学
帝京科学大学 看護学科	大学生	授業等	36	対話型作品鑑賞レクチャー/展覧会解説
筑波大付属駒場中学校	中学生	授業等	13	フォトグラム/対話型作品鑑賞
武蔵野美術大学 芸術文化学科	大学生	博物館実習	56	美術館概要説明/バックヤード見学/ 展覧会解説
渋谷区立加計塚小学校	4年生	図工	42	コマ撮りアニメーション/対話型作品鑑賞
渋谷区立加計塚小学校	5年生	図工	68	フォトグラム/対話型作品鑑賞
渋谷区立加計塚小学校	3年生	図工	64	おどろき盤/対話型作品鑑賞
自由が丘学園高等学校	写真部	部活動	12	フォトグラム/対話型作品鑑賞

2020(令和2)年度

東京都立豊多摩高校	高校2、3年生	部活動	10	スライドによる対話型作品鑑賞/展覧会自由見学
-----------	---------	-----	----	------------------------

帝京科学大学 看護学科	大学1年生	美術と対話	7	対話型作品鑑賞レクチャー/スライドによる対話型作品鑑賞/ 展覧会自由見学
東洋女子高等学校	高校1年生	グローバル教育	12	スライドによる対話型作品鑑賞/展覧会自由見学
東村山市南台小学校 ○	4年生	図工	29	おどろき盤
東村山市南台小学校 ○	4年生	図工	29	おどろき盤
東村山市南台小学校 ※	5年生	図工	30	スライドによる対話型作品鑑賞
東村山市南台小学校 ※	5年生	図工	29	スライドによる対話型作品鑑賞
港区立白金の丘小学校	5年生	図工	62	展覧会自由見学
東京都立国際高校	高校2年生	授業	22	概要解説/展覧会自由見学
港区立白金の丘小学校	5年生	図工	65	展覧会自由見学
東村山市立小学校図工研究会 ○	図工教員	教員研修	24	おどろき盤
文化学園大学 デザイン・造形学科	大学3年生	美術館見学	39	概要解説/展覧会自由見学
山梨県立わかば支援学校	高校生	図工	12	おどろき盤(教材提供)
渋谷区立加計塚小学校 ※	3年生	図工	26	おどろき盤
渋谷区立加計塚小学校 ※	4年生	図工	31	青写真
渋谷区立加計塚小学校 ※	5年生	図工	20	青写真
八王子市立松が谷小学校 ※	6年生	図工	30	おどろき盤
八王子市立松が谷小学校 ※	6年生	図工	30	おどろき盤
渋谷区立加計塚小学校 ※	4年生	図工	31	青写真
渋谷区立加計塚小学校 ※	5年生	図工	19	青写真
IFラボ	3,4,5年生	フリースクール	4	おどろき盤/スライドによる対話型作品鑑賞
渋谷区立加計塚小学校 ※	6年生	図工	32	青写真
渋谷区立加計塚小学校 ※	6年生	図工	33	青写真
渋谷区立加計塚小学校 ※	3年生	図工	25	おどろき盤

2021(令和3)年度

東邦大学 看護学科	大学生	授業	19	対話型作品鑑賞レクチャー/スライドによる対話型作品鑑賞
Ivy Prep International School (steam Lab Tokyo)	6～14歳	授業	10	おどろき盤
私立京華女子中学校 ○	中学3年生	授業	40	おどろき盤
都立豊多摩高校	写真部	部活動	17	スライドによる対話型作品鑑賞
目黒区立大島中学校 ○	美術部	部活動	14	おどろき盤
都立志村学園	高校1、2、3年	部活動	14	青写真/展覧会自由見学
都立豊多摩高校	写真部	部活動	19	青写真/モノクロ銀塩プリント
東村山市立南台小学校 ※	5年生	図工	29	スライドによる対話型作品鑑賞
東村山市立南台小学校 ※	5年生	図工	30	スライドによる対話型作品鑑賞
武蔵野美術大学	大学生	授業	49	概要説明等
葛飾区立よつぎ小学校 ※	6年生	図工	67	スライドによる対話型作品鑑賞
帝京科学大学	大学生	授業	7	対話型作品鑑賞レクチャー/スライドによる対話型作品鑑賞
国分寺市立第一小学校 ※	5年生	図工	67	おどろき盤
葛飾区立よつぎ小学校 ※	5年生	図工	60	スライドによる対話型作品鑑賞
港区立白金の丘小学校	5年生	図工	68	「松江泰治」展、「日本の新進作家 vol.18」展 展覧会見学
港区立白金の丘小学校	5年生	図工	68	「松江泰治」展、「日本の新進作家 vol.18」展 展覧会見学
大妻高校	写真部	部活動	6	青写真、貸出用デジネガによるモノクロ銀塩プリント
明治学院高校	写真部	部活動	7	モノクロ銀塩プリント(デジタルネガ)/青写真
葛飾区立中青戸小学校 ○	4年生	図工	87	おどろき盤
筑波大付属駒場中学校	中学3年生	図工	7	スライドによる対話型作品鑑賞/青写真
東村山市立南台小学校 ※	4年生	図工	30	おどろき盤 WEB アプリによる授業
東村山市立南台小学校 ※	4年生	図工	31	おどろき盤 WEB アプリによる授業
都立世田谷泉高校	写真部・美術部	部活動	15	スライドによる対話型作品鑑賞/展覧会自由見学
北区田端小学校 ※	6年生	図工	56	おどろき盤 WEB アプリによる授業
北区田端小学校 ※	6年生	図工	27	おどろき盤 WEB アプリによる授業

博物館実習

MUSEUM PRACTICE PROGRAM

博物館実習は、博物館法に基づき、大学で修得できる博物館に関する科目の一つで、登録博物館又は博物館相当施設における実習によって単位を修得するものと定められています。東京都写真美術館では二〇〇〇年より各大学からの実習生を受け入れています。



博物館実習統計

- 2019(H31)年度** 受入日程：2019年8月21日(水)～9月6日(金)のうち10日間
実習生数(学校数)：12名(11校)
- 2020(R2)年度** 受入日程：2020年8月20日(木)～9月4日(金)のうち10日間
実習生数(学校数)：7名(6校)
- 2021(R3)年度** 受入日程：2021年8月26日(木)～9月10日(金)のうち10日間
実習生数(学校数)：8名(7校)

ボランティア活動

パブリックプログラム、スクールプログラムなどの際に、教育普及プログラムボランティアが来館者サポートを行っています。暗室での現像やアニメーション制作の補助、対話型作品鑑賞のためのファシリテーター、障害のある方のためのプログラムでのサポートなど多方面で活躍するとともに、全員が各プログラムでスムーズに活動できるよう、さまざまな研修を行います。



ボランティア統計

- 2019(H31)年度** 登録者数：78名(うち新規登録者11名)
活動内容：パブリックプログラム、スクールプログラム
- 2020(R2)年度** 登録者数：68名(うち新規登録者0名)
活動内容：パブリックプログラム、スクールプログラム
- 2021(R3)年度** 登録者数：78名(うち新規登録者13名)
活動内容：パブリックプログラム、スクールプログラム、恵比寿映像祭

東京都写真美術館ボランティア活動記録

2019(平成31)年度

年月日	曜日	内容・会場・講師など	
19年5月25日	土	第一回ボランティア連絡会	
19年5月25日	土	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
19年5月30日	木	ボランティア研修会(実技系プログラムフォローアップ研修)	講師:当館学芸員
19年6月8日	土	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
19年6月15日	土	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
19年7月27日	土	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
19年7月28日	日	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
19年9月19日	木	新規ボランティア実技研修(実技プログラム Aチーム)	講師:当館学芸員
19年9月22日	日	新規ボランティア実技研修(実技プログラム Bチーム)	講師:当館学芸員
19年9月29日	日	新規ボランティア実技研修(鑑賞プログラム)	講師:当館学芸員
19年9月29日	日	第二回ボランティア連絡会	
19年10月13日	日	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)◎	
19年11月7日	木	ボランティア研修会(フォローアップ研修)	講師:当館学芸員
19年11月7日	木	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
19年11月17日	日	ボランティア研修会(フォローアップ研修)	講師:当館学芸員
19年11月17日	日	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
19年11月24日	日	ボランティア研修会(コミュニケーションについて)	講師:福のり子(京都造形芸術大学教授、アート・コミュニケーション研究センター所長)
19年12月7日	土	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
20年1月19日	日	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
20年3月8日	日	第三回ボランティア連絡会★	
20年3月22日	日	ボランティア研修会(鑑賞プログラム その1)★	講師:当館学芸員
20年3月22日	日	ボランティア研修会(鑑賞プログラム その2)★	講師:当館学芸員

2020(令和2)年度

20年9月19日	日	第一回ボランティア連絡会 ※オンライン実施	
20年10月24日	土	ボランティア研修会(対話型作品鑑賞) ※オンライン実施	講師:当館学芸員
20年10月25日	日	ボランティア研修会(対話型作品鑑賞) ※オンライン実施	講師:当館学芸員
20年12月19日	土	ボランティア研修会(鑑賞プログラム その1)	講師:当館学芸員
20年12月19日	土	ボランティア研修会(鑑賞プログラム その2)	講師:当館学芸員
20年12月20日	日	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放)	
20年12月27日	土	ボランティア研修会(鑑賞プログラム その1)	講師:当館学芸員
20年12月27日	土	ボランティア研修会(鑑賞プログラム その2)	講師:当館学芸員

21年3月7日	日	ボランティア研修会(インターン卒業レクチャー「TOP図書室 かつよう術～雑誌編～」)	講師:松澤優(インターン)
21年3月7日	日	ボランティア研修会(バリアフリー研修「写真美術館の楽しさを伝える一さまざまなコミュニケーションの手法」)	講師:西岡克浩、和田みさ、市川節子(美術と手話プロジェクト)
21年3月14日	日	第二回ボランティア連絡会 ※オンライン実施	

2021(令和3)年度

21年5月30日	日	ボランティア自主研修会(対話型作品鑑賞)	講師:当館学芸員
21年6月6日	日	第一回ボランティア連絡会 ※オンライン実施	
21年6月12日	土	ボランティア自主研修会(対話型作品鑑賞)	講師:当館学芸員
21年6月26日	土	ボランティア自主研修会(対話型作品鑑賞)	講師:当館学芸員
21年7月4日	日	ボランティア自主研修会(対話型作品鑑賞)	講師:当館学芸員
21年7月11日	日	ボランティア自主研修会(対話型作品鑑賞)	
21年7月22日	木・祝	ボランティア自主研修会(対話型作品鑑賞)	
21年8月15日	日	ボランティア自主研修会(対話型作品鑑賞)	
21年8月29日	日	ボランティアによる初めてのの方のための対話型鑑賞会	
21年9月17日	金	ボランティア自主研修会(暗室開放)	
21年9月19日	日	ボランティア自主研修会(暗室開放)	
21年10月17日	日	ボランティア研修会(実技系)	講師:当館学芸員
21年10月22日	金	ボランティア研修会(実技系)	講師:当館学芸員
21年10月30日	土	ボランティア研修会(実技系)	講師:当館学芸員
21年11月13日	土	対話型自主研修会	講師:当館学芸員
21年11月27日	土	対話型自主研修会	
21年12月4日	土	対話型自主研修会	
21年12月11日	土	対話型自主研修会	
22年1月9日	日	第二回ボランティア連絡会 ※オンライン実施	
22年1月9日	日	ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室解放)	
22年3月5日	土	第三回ボランティア連絡会 ※オンライン実施	
22年3月5日	土	バリアフリー研修会	講師:有田玲子(東京にほんごネット代表)

★新型コロナウイルス感染症対応のため中止 ◎大型台風のため中止
※講師の所属は実施当時のもの

写真と映像のしくみのより深い理解と作品をより深く鑑賞することを促すために、美術館オリジナルの教材を企画開発しています。

教育普及事業 教材開発

感覚と対話を育む鑑賞教材「色と形と言葉のゲーム」

「色と形と言葉のゲーム」は、対話型作品鑑賞を行う前のウォーミングアップの教材としてうまれました。不思議な形とカラフルな色をしたカードと、さまざまな言葉の書かれたカードを使って、それぞれの感じ方や考え方の違いをそのまま楽しむゲームです。



Photo | Ryosuke Yamahiro (上、中央)

ゲームの特徴

1: 子供から大人まであらゆる人々が楽しめる

子供からお年寄りまで、多様な力を育むだけではなく、大人同士のコミュニケーションツールとしても活用できます。また、答えの違いによる優劣はありませんので大人と子供が同じ地平で一緒に楽しむことができます。

2: 観察力、想像力など様々な力を呼び覚ます

「人それぞれ感じたり考えたりすることは同じではない」という当たり前でとても大切なことを、このゲームでは楽しく遊びながら体験できます。

3: 正解は人の数だけあり、他人との共感を強要しない

このゲームは人はそれぞれ違う考えを持っていることを前提にしているため、あらゆる意見は等価値です。「私とは違う感じ方だけど、そういう考えもあるんだね」と、考え方や感じ方の違いをそのままの状態を受け入れることを体験します。

ゲームの構成

A: 色と形のカード 全 42 枚

何を表したわけではない、不思議な形のカード。向きを変えてみると見え方が変わることも。21種類の形が各2色ずつ

B: 言葉のカード 全 80 枚

いろいろな意味に受けとれるさまざまな言葉がひらがなで書かれたカード

制作：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
企画開発：武内厚子（東京都写真美術館）
パッケージデザイン：佐野真弓（日本デザインセンター）
実用新案登録：第 3221475 号
発行 2019 年 10 月

回転アニメーション Web アプリ「マジカループ」 <https://magicaloop.jp>

東京都歴史文化財団が主催する TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクトの一環として、児童・生徒が一人一台タブレットを使用できる学校環境を背景として現代のICT教育に適したデジタル教材「マジカループ」を開発しました。立体アニメーションを手がける美術作家バンタグラフによる監修のもと、当館の教育普及プログラムが企画制作を行いました。各学校で使用している情報端末OSの種類に関わらず、またダウンロードも不要な Web アプリの形式をとることで、様々なデジタル環境に対応できるようにしました。このアプリの専用 Web サイトにアクセスして、図工・美術の授業や部活動等において遠隔でも使用することが可能で、小学生から中学生までがアニメーションの仕組みを楽しみながら学ぶことができる体験ツールとなっています。

※タブレット端末での利用を推奨。WiFi通信環境が必要。



各メニュー

「デジタルでつくる」

スタンプ機能、ドロー機能を用いて、回転アニメーションが作画、再生・データを保存することができます。

「アナログでつくる」

回転アニメーションを手描きするための「円形ガイド」を印刷し、絵や図柄を描いたら各端末のカメラで撮影してアプリで回して見ることができます。

「作品例をみる」

回転アニメーションの制作例を静止画、動画で紹介しします。

専用Webサイト「図工・美術×アニメーション」

アニメーションをたのしむ、まなぶためのデジタル教材「マジカループ」のプラットフォーム。

制作統括：東京都写真美術館 教育普及プログラム

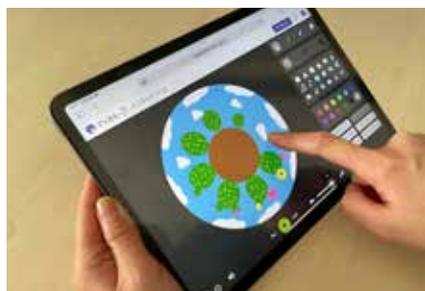
監修：井上仁行（バンタグラフ）

制作：飯塚修平、江口拓人（artrecorder）、

村上寛光（株式会社フリッカ）

石田哲朗（東京都写真美術館）、武内厚子（東京都写真美術館）

企画：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館



東京都写真美術館は、わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、1995(平成7)年1月に恵比寿ガーデンプレイスに誕生しました。収蔵作品数は古今東西の名品が35,000点以上。とくに日本作家の充実した豊富なコレクションなどは、他館にないユニークなものです。

当館は、3つの展示室を持ち、国内外の質の高い写真・映像作品を紹介する展覧会の開催を行うほか、幅広い層を対象にした多様な教育普及プログラムを実施し、専門図書室を有し、当館ならではの良質な映画の上映を行うなど、様々な角度から写真・映像に親しんでいただける活動が盛り沢山です。

東京都写真美術館の教育普及プログラムは、東京都写真美術館支援会員のサポートにより実施しています。教育普及プログラムの最新情報はウェブでお知らせしています。

東京都写真美術館 教育普及ページ

http://topmuseum.jp/contents/pages/education_index.html

東京都写真美術館 教育普及ブログ

<http://blog02.topmuseum.jp/>

東京都写真美術館 教育普及プログラム記録集 2019-2022

編集 | 東京都写真美術館 武内厚子、石田哲朗、小島ひろみ

編集補助 | 宮本美紀

デザイン | 佐野真弓 (株式会社日本デザインセンター)

進行管理 | 森田瑞穂 (株式会社日本デザインセンター)

発行 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3

恵比寿ガーデンプレイス内

tel: 03-3280-0099

www.topmuseum.jp

発行日 | 2022年3月

無断転載禁止

TOP MUSEUM 東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM